

THE ILLUSTRATED NIPPON

# 日本画報

—付・「日露戦時旬報」—

全2巻

◆監修◆有山輝雄 東京経済大学教授

◆編集・解題◆高木宏治 (陸羯南研究会)

陸羯南「日本」の付録として発行された幻の新聞資料、  
写真グラフ紙のさきがけ「日本画報」全42号を復刻。



その前身「日露戦時旬報」(全11号)も併載。

ゆまに  
書房 YUMANI  
SHOBU

# 『日本画報』復刻にあたって

## 有山輝雄

今回復刻される『日本画報』は、もともと陸羯南の新聞『日本』の付録である。「解題」で詳しく説明されているように最初は「週報日本」として明治二八年六月一〇日に発刊され、後に近衛篤磨から資金援助を受ける際に近衛の雑誌『東洋』と合併し『日本附録』となった。さらに日露戦争が起きるや戦争報道に特化した付録として明治三十七年二月一日から発行したのが『日露戦時旬報』である。

挿入は大きな売り物であったのである。陸羯南の論文を看板とし、硬派の新聞である『日本』が、『日本画報』のようなグラフィック・メディアを刊行したこと自体なかなか興味深いことであるが、一般的に日露戦争報道において画像が大きく流行となり、画像・図像を売り物とするメディアが統々と発刊された。代表的なものは、『日露戦争写真画報』（明治三十七年四月、博文館）、『戦時画報』（明治三十七年二月二一日）、『軍国画報』（明治三十七年四月、富山房）、『軍事画報』（明治三十七年四月、戦画研究会）などである。これらは雑誌であったが、各新聞も画像・図像による報道に力を入れた。『日本画報』のような新聞付録は、新聞本紙と雑誌の中間的な性格をもっていたらう。

メディアは競って戦場のスベクタクルを迫真的に伝えようとしたのであるが、それには画家などが目撃したのではなく、想像図にちかい絵が多い。当時は携帯できる小型写真機はなく、ニュース性のある写真を撮影することは非常に難しかったのである。それでも写真は新しいメディアとして大いに注目されていた。『日本画報』の売り物も「斬新なる写真」であった。日本新聞社が当時としては最新の写真印刷技術をもっていたことは「解題」で述べている通りだが、それを活用して発刊したのが『日本画報』であったのである。

「日本画報」が切り開いたグラフィックなジャーナリズムについては、今回の復刻を機に本格的な研究を進めていかなければならない。アメリカの歴史家ブーアステインは、「実物をつくりのイメージ―絵や人間や景色や出来事のイメージ、人間や群衆の声のイメージ―を作り、保存し、伝達し、普及させる」技術の革新を「複製技術革命（グラフィック・リボルーション）」（ブーアステイン「星野郁美・後藤和彦訳『幻影の時代』」と呼んでいるが、写真技術を活用した新聞や雑誌はまさに「複製技術革命」の先兵であった。

こうした視覚的メディアが人々の社会認識をどのように変えたのは、メディア研究にとって重要な研究課題である。そこでは、思想史的方法による言論・報道活動の研究とはまったく異なる読解方法が求められることはいうまでもない。また、政治史、経済史、社会史研究においても歴史資料として積極的利用を進める必要がある。

だが、これまでのところ利用できる画像・図像資料が限られていることもあって、ともすれば既存のイメージに合った画像を探して利用するトートロジーの傾向がある。さらにはあるいは写真や図像をそのまま無批判に事実と受け取ってしまう傾向さえある。画像・図像資料には、独自の史料批判が必要なのである。

今後、『日本画報』に掲載されている写真・画像をその主題や構図などを具体的に分析し、その意味するところを解釈していかなければならないが、同時に画家や写真家、機材、製作印刷技術などについての研究を進め、グラフィック・メディアが作りだす世界を考える必要があるだろう。

（東京経済大学教授）  
※本書「刊行のこぼれ」より抜粋

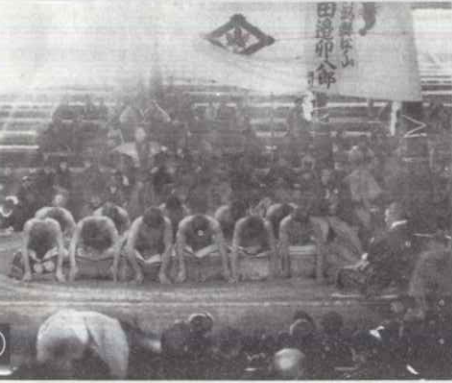
「社告」で「毎回戦時に関する画を挿入」することをうたっていることである。遠い外地での戦争を報道するにあたって画像・図像の

挿入は大きな売り物であったのである。陸羯南の論文を看板とし、硬派の新聞である『日本』が、『日本画報』のようなグラフィック・メディアを刊行したこと自体なかなか興味深いことであるが、一般的に日露戦争報道において画像が大きく流行となり、画像・図像を売り物とするメディアが統々と発刊された。代表的なものは、『日露戦争写真画報』（明治三十七年四月、博文館）、『戦時画報』（明治三十七年二月二一日）、『軍国画報』（明治三十七年四月、富山房）、『軍事画報』（明治三十七年四月、戦画研究会）などである。これらは雑誌であったが、各新聞も画像・図像による報道に力を入れた。『日本画報』のような新聞付録は、新聞本紙と雑誌の中間的な性格をもっていたらう。

メディアは競って戦場のスベクタクルを迫真的に伝えようとしたのであるが、それには画家などが目撃したのではなく、想像図にちかい絵が多い。当時は携帯できる小型写真機はなく、ニュース性のある写真を撮影することは非常に難しかったのである。それでも写真は新しいメディアとして大いに注目されていた。『日本画報』の売り物も「斬新なる写真」であった。日本新聞社が当時としては最新の写真印刷技術をもっていたことは「解題」で述べている通りだが、それを活用して発刊したのが『日本画報』であったのである。

こうした視覚的メディアが人々の社会認識をどのように変えたのは、メディア研究にとって重要な研究課題である。そこでは、思想史的方法による言論・報道活動の研究とはまったく異なる読解方法が求められることはいうまでもない。また、政治史、経済史、社会史研究においても歴史資料として積極的利用を進める必要がある。

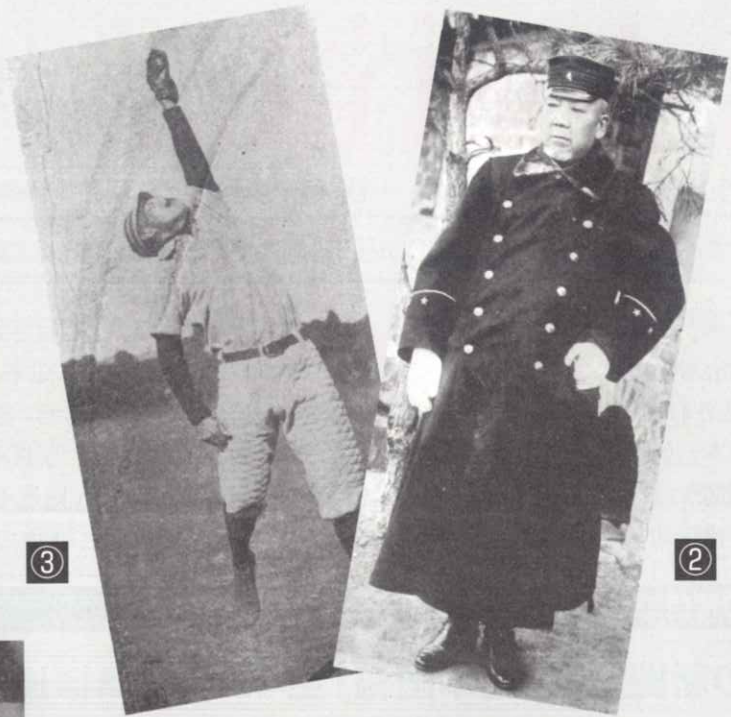
だが、これまでのところ利用できる画像・図像資料が限られていることもあって、ともすれば既存のイメージに合った画像を探して利用するトートロジーの傾向がある。さらにはあるいは写真や図像をそのまま無批判に事実と受け取ってしまう傾向さえある。画像・図像資料には、独自の史料批判が必要なのである。



38年10月) ④露帝の家族(『日本画報』第20号・明治38年10月) ⑤川上劇モンナワナ(『日本画報』第37号・明治38年10月) ⑥田邊卯八郎(『日本画報』第41号・明治39年8月) ⑦榎太アニワ湾内小



④

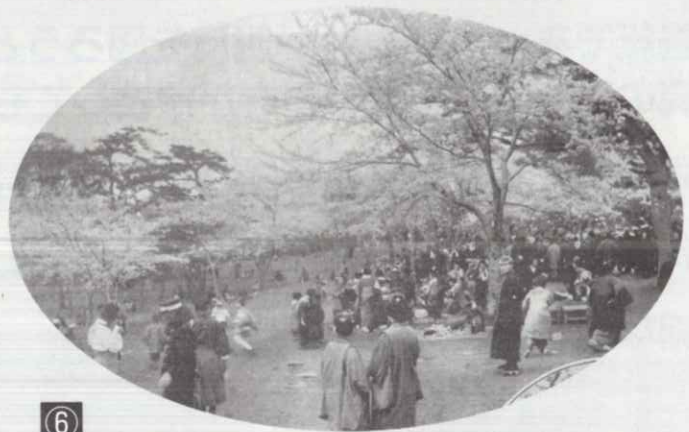


③

②



⑦



⑥

①

日露戦事旬報

露日

報旬事戦

○旬評

○日誌

○社説

⑫



⑩



⑨



⑪

①「日本画報」第1号(明治37年7月・26%に縮小) ②陣中に於ける大山元帥(「日本画報」第18号・明治38年2月) ③早稲田野球選手(「日本画報」第32号・明治38年3月) ④捕獲軍艦アリヨール甲板上的惨状(「日本画報」第26号・明治38年6月) ⑤飛鳥山の花見(「日本画報」第21号・明治38年4月) ⑥明治座に於ける39年3月 ⑦回向院一月場所大相撲 出世相撲の披露(「日本画報」第36号・明治39年2月) ⑧美人(「日本画報」第43号・明治38年12月) ⑨満洲風俗(「日本画報」第28号・明治38年7月) ⑩倉捕鯨所に於ける大鯨の巻上げ(「日本画報」第28号・明治38年7月) ⑫「日露戦時旬報」第1号(明治37年2月・26%に縮小)

# 日本画報

—付・『日露戦時旬報』—

全2巻

【監修】有山輝雄（東京経済大学教授）

【編集・解題】高木宏治（陸羯南研究会）

A3判上製／函入

●揃定価73,500円（本体70,000円・分売不可） ISBN978-4-8433-2832-3 C3336

2008年4月刊行

新聞『日本』（陸羯南主筆・明治22年～大正3年）の付録として発行されたタブロイド版の『日本画報』全42号（明治37年6月～明治39年10月、月2回発行、各号8頁または12頁）を復刻。従来、幻の新聞資料とされてきたが、平成15年に富山県で発見されたもの。日露戦争の報道写真、流行のファッション写真、力士の写真など多様であるが、政論紙であった『日本』が脱皮を図ろうとして発行したグラフ紙であり、写真の輪転印刷技術のさきがけとしても、新聞史研究上欠かせない資料である。そして、陸羯南研究者にとっても見逃せない文献である。『日本画報』の前身と考えられる『日露戦時旬報』（全11号）も付載。当時のジャーナリズムと戦争の関係を検証する手立てにも有用である。

## 本書の特色

- 幻の新聞資料『日本画報』全42号をほぼ原寸大で復刻。
- 政論紙であった『日本』が脱皮を図ろうとして発行したグラフ紙であり、写真の輪転印刷技術のさきがけとしても、新聞史研究上欠かせない資料。
- 陸羯南研究者にとっても見逃せない資料である。
- 『日本画報』の前身である『日露戦時旬報』（全11号）を併録。
- 詳細な資料解題・総目次を付す。

関連企画

## 陸羯南 日本 全81リール

【監修】北根 豊 35mmマイクロフィルム版  
「国民主義」を標榜して正論を掲げ、明治政府から度重なる弾圧を蒙りながらも最後まで抵抗した我国唯一の政論新聞「日本」をマイクロ化。●揃定価1,365,000円（本体1,300,000円・分売不可）

## 朝日新聞外地版

【監修・編集】坂本悠一 全65巻・別巻1  
昭和10年12月1日から同20年までの外地の地方版（朝日新聞西部本社所蔵）を集成。朝鮮、満洲、中国、台湾などの各版ごとを年代別に編纂収録。 ●最多価格：各36,750円（本体35,000円）

## 風俗画報 CD-ROM版 Ver.2

【監修】植田満文 【編】大串夏身／横山泰子 全11枚  
明治22年に創刊された我が国最初のグラフ雑誌『風俗画報』全冊を完全CD-ROM化した決定版。新バージョン版。Windows98, Me, NT, 2000, XP対応。 ●揃定価231,000円（本体220,000円・分売不可）

## 新吉原画報・劇場図会

【監修】植田満文 全1巻  
明治31年発行、雑誌『世事画報』の臨時増刊号。豊富な絵と詳細な記述により吉原と芝居について様々な情報を与えてくれる好文献。解説と事項索引等を付す。 ●定価21,000円（本体20,000円）



〒101-0047  
東京都千代田区内神田2-7-6  
TEL.03 (5296) 0491  
FAX.03 (5296) 0493  
<http://www.yumani.co.jp/>  
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方  
日本近代史、新聞史、ジャーナリズム史、明治社会史、写真史の研究者、大学図書館など。

|            |   |  |             |
|------------|---|--|-------------|
| ご注文書       | ゆまに書房 Tel.03 (5296) 0491 / Fax.03 (5296) 0493 年 月 日 |  | 取<br>扱<br>店 |
|            | 日本画報 一付・『日露戦時旬報』— 全2巻（分売不可）                         |  |             |
| お名前<br>ご住所 | ●定価73,500円（本体70,000円） ISBN978-4-8433-28323 C3021    |  | 部           |
|            | TEL ( )   |  |             |

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。



08.01/04.4000.H